子どもの歌によるピアノ初心者のための教材開発

福　井　昭　史

Development of teaching materials for piano beginners using children's songs

Akifumi FUKUI

1　研究の背景と目的

初等教育前期においては、言葉以外のコミュニケーションである音楽の活動は重要な意味をもっており、そのためには幼児教育を担当する保育者の音楽やそれによる教育に関する知識や技能が必要であることはいうまでもない。中でも、子どもの歌や活動を促すための歌唱力とピアノ演奏の技能はとくに欠かせない資質である。長崎女子短期大学幼児教育学科では、音楽とその教育に関する知識、歌唱力、ピアノ演奏の技能を音楽の教育内容とし保育者養成にあたっており、音楽の実技は、幼稚園などで歌われる子どもの歌の弾き歌いとしている。

ところで音楽の学習では、それまでの学習経験がさほど影響しない理論や知識の学習に対して、表現の技能、とりわけピアノ演奏は、経験による能力差が学習の大きな障害となる。本学におけるピアノ演奏の学習には、２年間という限られ期間で子どもの歌の伴奏が弾けるという達成目標があり、教材の選択や学習の進度など個に応じた指導が難しいのが実状である。そこで、最大の課題であるピアノ初心者に対する教育の在り方を検討し、個々の能力差に応じた指導方法と子どもの歌による教材の開発、ピアノ学習の導入期における教育カリキュラムの作成を目的に研究に取り組んだ。

2　子どもの歌のピアノ伴奏演奏上の課題

本学では､子どもの歌の伴奏楽譜に主として｢こどものうた200｣（チャイルド社刊）を用いているが、ピアノ初心者が演奏するにあたってのさまざまな課題がみられる。それらを右手と左手とに分けて整理すると次のようになる。

⑴　右手の課題

幼稚園などで歌われる保育用の歌のピアノ伴奏は、歌の旋律を右手がそのまま演奏するものが大部分で、そのことに起因する次のような演奏上の課題がみられる。

①　付点音符のリズム

子どもの歌には、１拍を３対１に分割する付点音符のリズムが多数含まれている。音楽経験が豊富な者にとっても難しい付点のリズムを正確なテンポで演奏することは初心者にとって大きな課題である。（譜例１、２、３）

ところで、中山晋平作曲の「砂山」は、４分の４拍子で記述されているが、１拍が８分音符２つの場合は、譜例４のように１拍を２等分するのではなく、１拍を２対１に分割して３連符のリズムのようにはずむような感じで歌うとされており、日本の人々はこのようなリズム感に慣れているといえる。

日本では、付点で表される弾むようなリズムが、３対１ではなく２対１に近くなる傾向があり、子どもの歌でも付点のリズムを実際にはそのようなリズムで歌っている場合が多いと考えられる。

②　同音の連打

歌唱教材の伴奏であることから、右手は歌の旋律であり、同音の連打（譜例５、６）が多い。ところが同じ音の連打、とくに16分音符や付点のリズムの連打を正確なテンポで奏するのは難しく、

初心者にとっては課題である。

③　広い音域

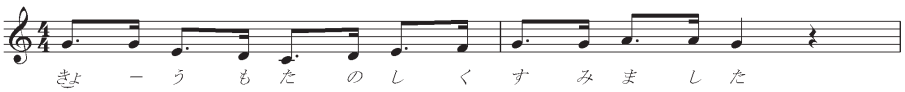
子どもの声域が広くないことから、子どもが歌う歌の大部分は１オクターブを越えない音域で作られている。しかし、ピアノの初心者にとっては、「ちょうちょう」（譜例７）のような連続する５音（ド～ソ）までの旋律、または《かえるの合唱》（譜例８）のように一つのフレーズの音が５音以下の旋律の演奏は容易であるが、音域が広く音の数が多い旋律の演奏は難しいといえる。

譜例３《はをみがきましょう》の９小節目からのフレーズは１オクターブを越える旋律（９度）で音の数も７であり難易度が高い。

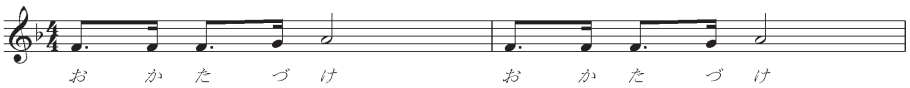
④　黒鍵を伴う調

子どもの歌は、白鍵だけで演奏できるハ長調が多いが、歌の音域の中間に終止音が位置する旋律の場合は、子どもの声域に合わせるとヘ長調やト長調となり、黒鍵を伴う調もみられる。ピアノの初心者にとっては、譜例２《おかたづけ》や譜例６《おててをあらいましょう》のように、嬰ヘ、嬰ハ、変ロなど黒鍵を含む旋律の演奏に慣れるまでは抵抗感があるといえる。

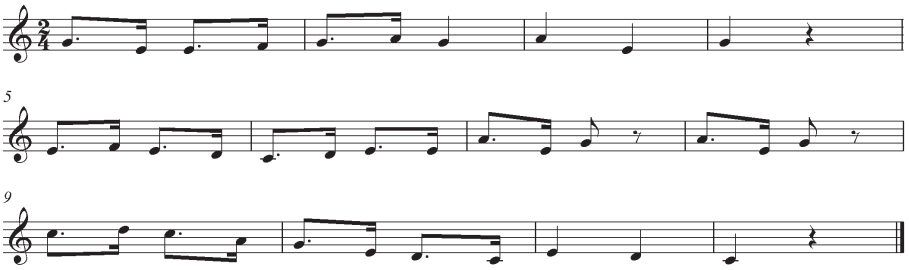
譜例１《おかえりのうた》



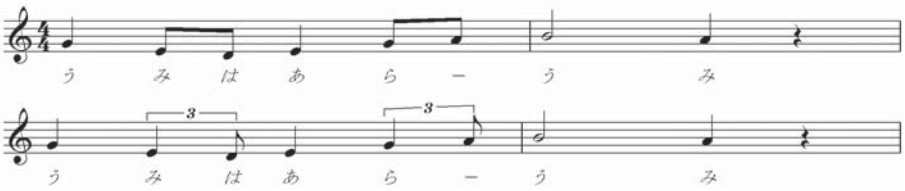
譜例２《おかたづけ》



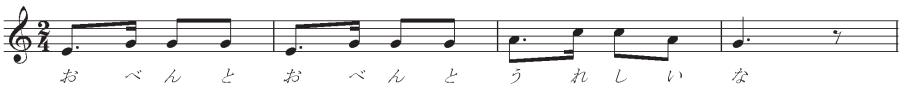
譜例３《はをみがきましょう》



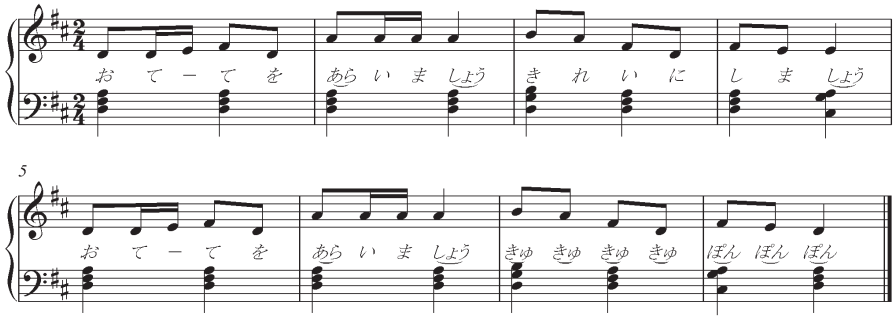
譜例４《砂山》北原白秋作詞・中山晋平作曲



譜例５《おべんとう》



譜例６《おててをあらいましょう》



(2)　左手の課題

左手の役割は、右手が演奏する旋律の伴奏を受け持つのが大部分である。子どもの歌であることから、主要三和音による伴奏が主で、臨時記号の付く和音は稀であるが、伴奏のパターンや音型によっては難易度が高いものもみられる。

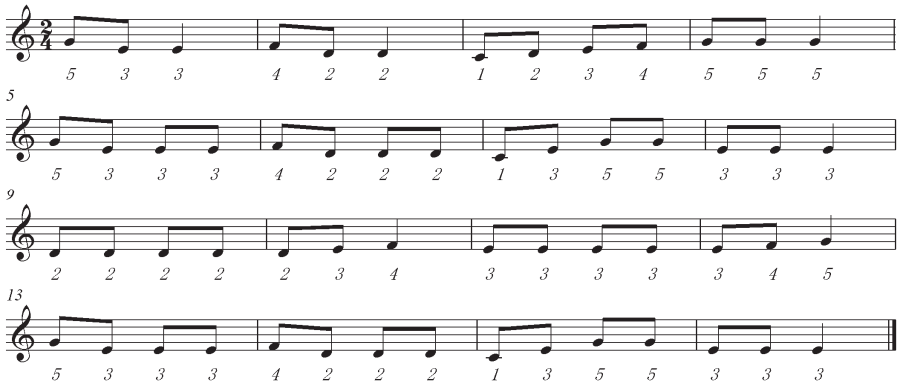
①　広い音域

左手の伴奏には、三和音の連打、分散和音などが用いられるが、その音域が広いと演奏の難易度が高くなる。譜例９《まめまき》には１オクターブに及ぶ分散和音の上行や下行がみられる。

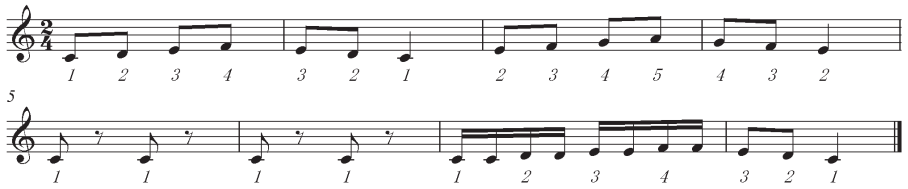
② 旋律的な音の動き

右手の旋律に対して副次的な旋律を奏するものがあり、初心者にとっては難易度が高い。譜例９《まめまき》の９小節目以降がとくに顕著な例である。

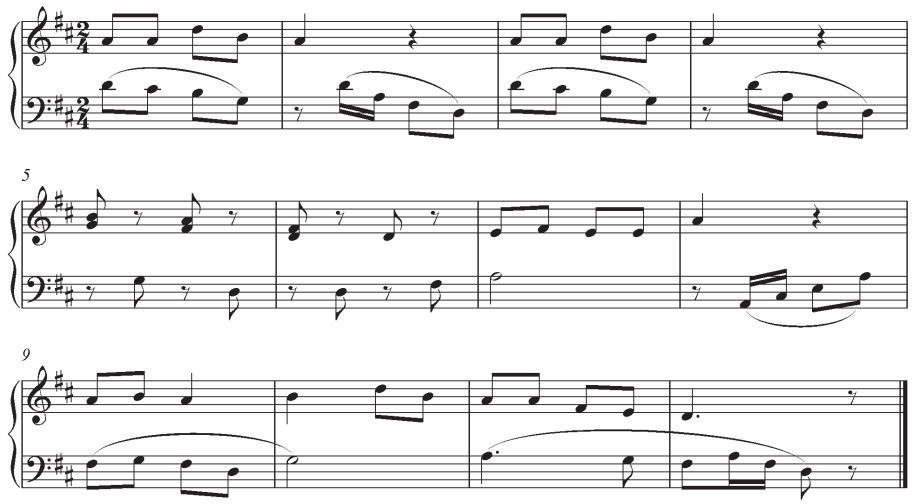
譜例７《ちょうちょう》



譜例８《かえるの合唱》



譜例９《まめまき》



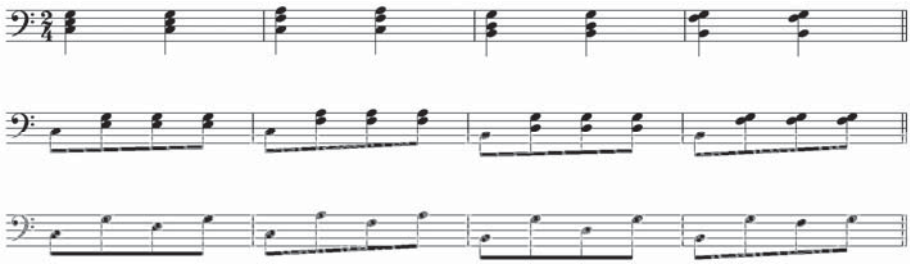
3 ピアノ伴奏の演奏上の課題解決の視点

ピアノ初心者でも伴奏が弾けるようになるためには、学生の技能の範囲で演奏できる簡易伴奏を作成する必要がある。また、それらの学習によって演奏技能が徐々に向上するように教材を配列し、ピアノ演奏のメソードを作成することができれば、保育者養成における音楽教育の改善に資することになると考える。子どもの歌の簡易伴奏作成にあたっては、学生の実態による前述の課題から、次のような視点を設けた。

⑴ 右手の動き

歌の旋律を基本としながらも、同音の連打などは避け、旋律線に沿って簡素化する。

譜例 10〈伴奏のパターン〉



ところで、歌曲や流行り歌などのピアノ伴奏は旋律を演奏しないものが大部分であり、そのことを踏まえ、歌によっては旋律を入れない伴奏とすることも考慮する。

⑵　左手の動き

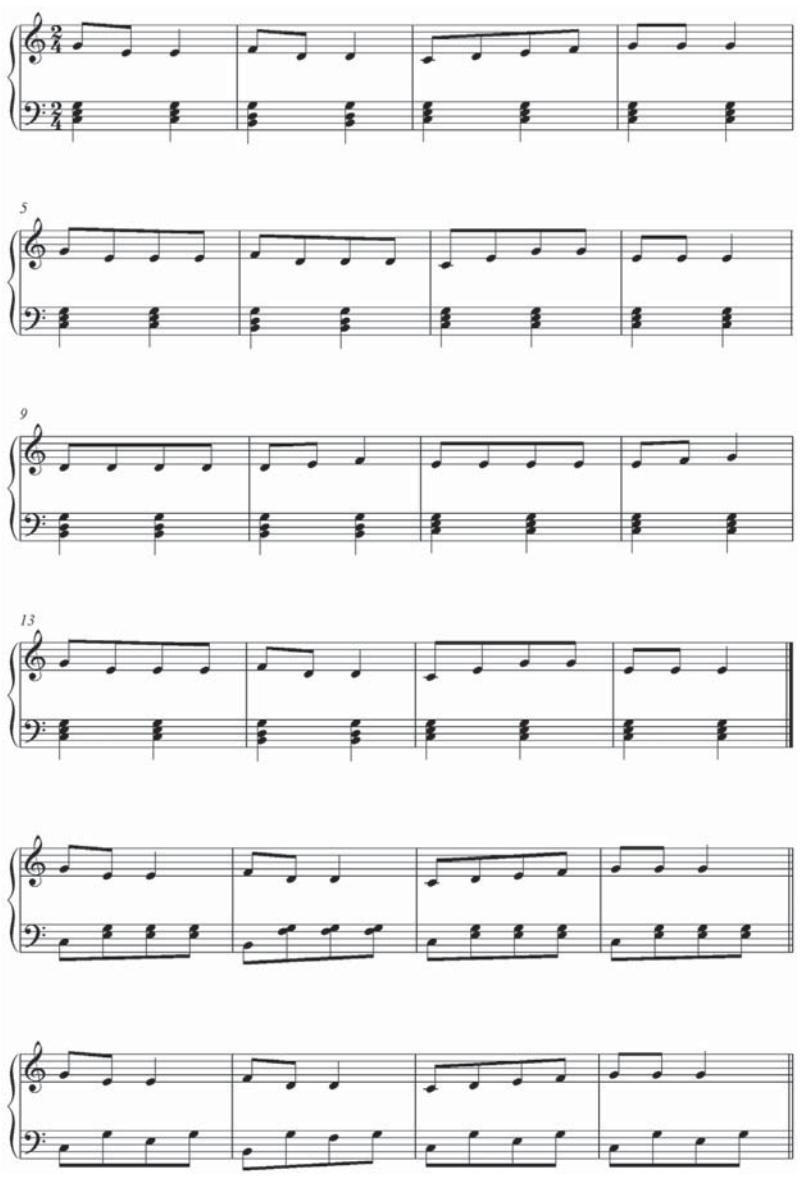
旋律の和声進行を基に伴奏の音型をパターン化し曲想に合わせて活用する。ピアノの伴奏音型としてしばしば用いられる譜例10のようなパターンが考えられる。

これらのパターンやそれらを組み合わせることでさまざまな伴奏を作成することができる。

4　子どもの歌によるピアノ教材の開発

子どもの歌によるピアノ教材の開発には、その曲想、旋律やリズム、とくにフレーズや音域の特徴を分析し、演奏の難易度を明らかにする必要がある。それをもとに、構成音と指とが１対１に対応できる５音以下の狭い音域の旋律から始め、徐々に難易度を高めるという楽曲の配列が重要となる。そのようなピアノ学習の段階を想定し、教材を選択し、簡易伴奏を作成する。学習段階の作成には、前述の音域の狭いものから広いものへ、簡易なリズムから付点やシンコペーションのリズムへ、白鍵だけの調から黒鍵を含む調へなどの視点から次の⑴から⑹の６段階とした。

譜例 11《ちょうちょう》ハ長調



⑴　狭い音域・単純なリズムの旋律

ドからソのように連続する５音による構成の旋律が最も容易であることは言うまでもない。また、付点のリズムや同音の連打が少ないことも条件である。

《ちょうちょう》や《ぶんぶんぶん》は、４分音符と８分音符だけによる旋律であり、伴奏の和音も主和音（Ⅰ）と属和音（Ⅴ・Ⅴ７）だけであり、前述の各種の伴奏音型のパターンで容易に演奏することができる。

譜例11は、《ちょうちょう》のハ長調の旋律に３パターンの伴奏を付けたものである。２つのパターンについては冒頭の４小節だけを示している。

譜例12は、《ぶんぶんぶん》の旋律に曲想に合わせて三和音の伴奏を付けたものである。

《チューリップ》は、全体ではドからラの連続する６音による音構成であるが、ラは10小節目だ

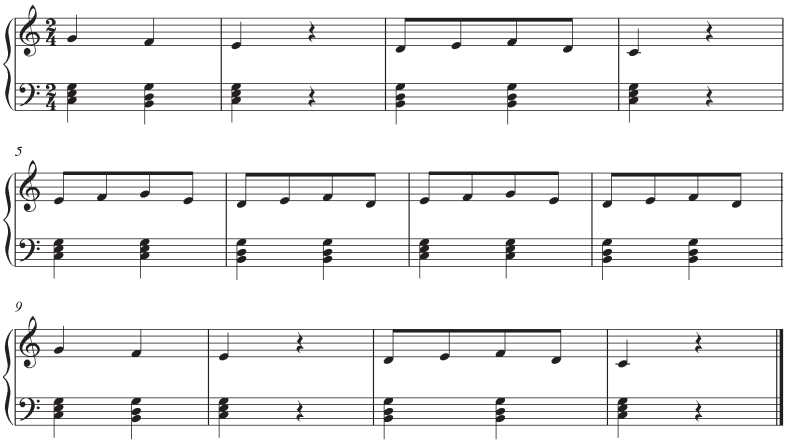
けであり、《ちょうちょう》や《ぶんぶんぶん》と同様に付点のリズムを含まない４分音符と８分音符だけによる旋律である。各種の伴奏音型のパターンで容易に演奏することができる。

譜例13は、《チューリップ》の旋律に三和音の伴奏を付けたものである。

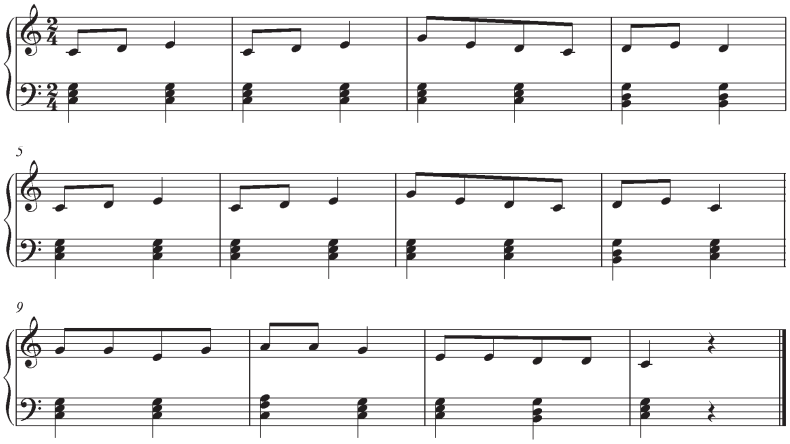
ドからラの６音からなり、ニ長調で記述されている《おててをあらいましょう》をハ長調に移調し、伴奏では同音の16分音符の連打を省略すると、譜例14のように演奏が容易になる。

《カッコウ》（譜例15）はドからソの連続する５音からなる旋律で、子どもの歌には少ない３拍子である。

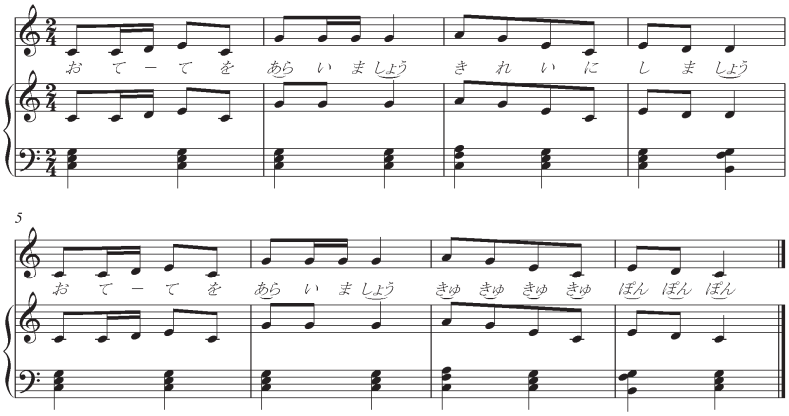
譜例 12《ぶんぶんぶん》ハ長調



譜例 13《チューリップ》ハ長調



譜例 14《おててをあらいましょう》ハ長調



⑵　狭い音域・付点を含むリズムの旋律

《メリーさんの羊》は、ド～ソの連続する５音の構成で、付点のリズムを含む旋律であるが、順次進行を基本とするため演奏は容易である。各種の伴奏音型のパターンで演奏することができる。

譜例16は、《メリーさんの羊》のハ長調の旋律に３パターンの伴奏を付けたものである。

⑶　既習楽曲を移調した旋律

《ちょうちょう》《チューリップ》《メリーさんの羊》など狭い音域（６度以下）の旋律は属調や下属調に移調しても、歌える声の範囲を越えない。

声域の最高音を二とすると、ハ長調でドからソの５音の楽曲はヘ長調と ト長調に、ドからラの６音の楽曲はヘ長調に移調しても範囲を越えることはない。変ロ音、嬰ヘ音など黒鍵に慣れるための学習の導入に適している。

譜例17～22は、狭い音域のハ長調の楽曲をヘ長調やト長調に移調したものである。

ここまで学習した技能の範囲で、５音によるヘ

長調の旋律の《おかたづけ》（譜例23）の演奏が可能である。

他にも、《ジングルベル》《ロンドン橋がおちる》などの演奏が可能である。

⑷　広い音域・フレーズの音域が狭い旋律

右手で演奏する旋律が１オクターブに及ぶ広い音域の場合も、フレーズの音域が狭く、その中の音の数が少なければ容易に演奏できる。

《まつぼっくり》は、４小節ずつのフレーズに分けると、６度以下の音域で音の数も５音以下である。また《どんぐりころころ》も２小節ずつのフレーズに分けると、同様である。

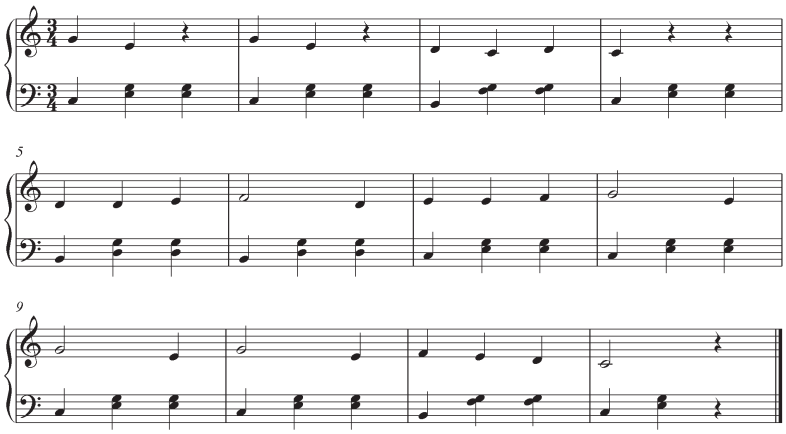
譜例24、25のように、ＡとＢのフレーズで指のポジションを移動させ、音符の下に示した指使いで容易に演奏することができる。また、この２曲の歌は、同音の連打が多いという特徴がある。次の歌詞のアンダーラインの部分などであり、伴奏では連打を避けることで演奏が容易になる。

「まつ　ぼっ　くり　が　あったと　さ」

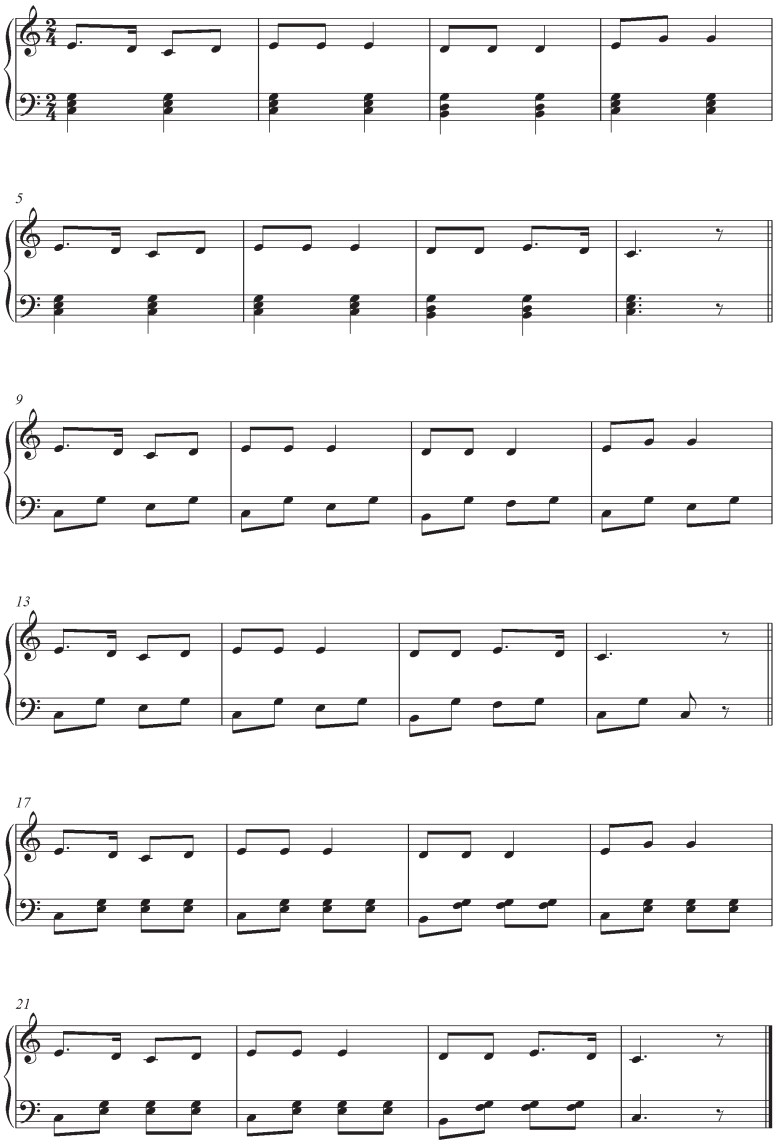
「どん　ぐり　ころころ　どんぶり　こ」

譜例26《こぎつね》は、Ｂのポジションに移る際に、Ａの２小節目の同音のソを５から２の指にすることで、容易に演奏することができる。

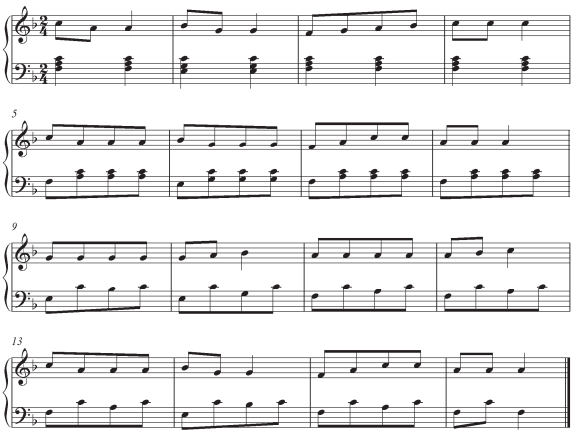
譜例 15《カッコウ》



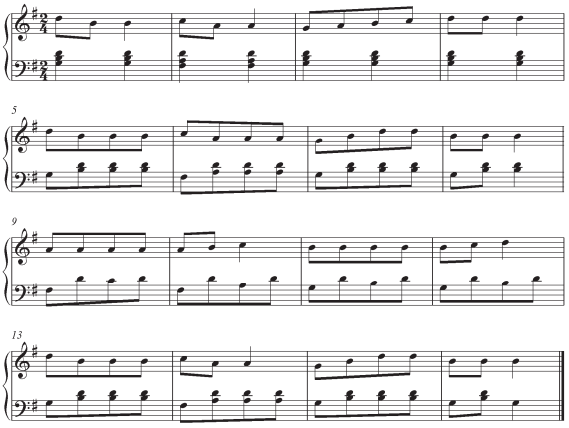
譜例 16《メリーさんの羊》ハ長調



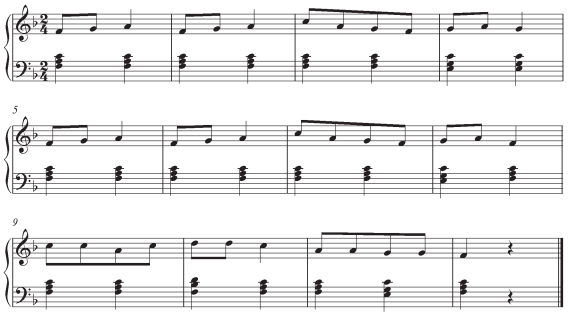
譜例 17《ちょうちょう》ヘ長調



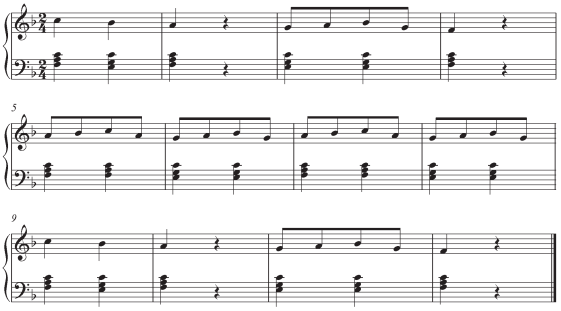
譜例 18《ちょうちょう》ト長調



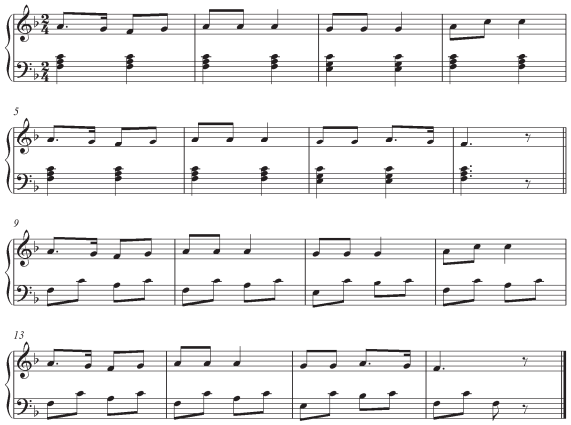
譜例 19《チューリップ》ヘ長調



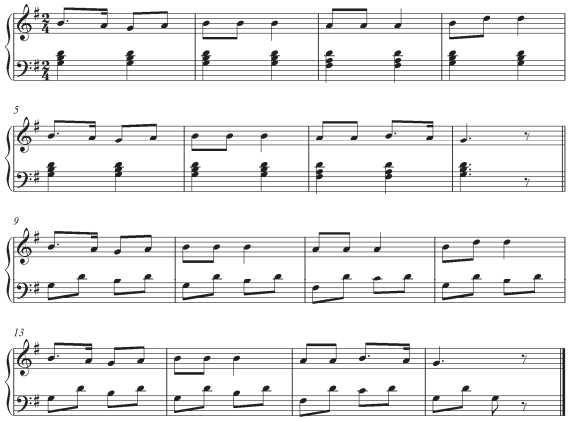
譜例 20《ぶんぶんぶん》ヘ長調



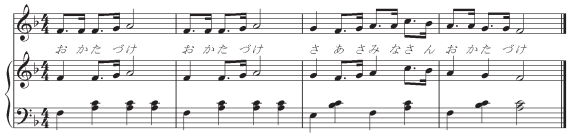
譜例 21《メリーさんの羊》ヘ長調



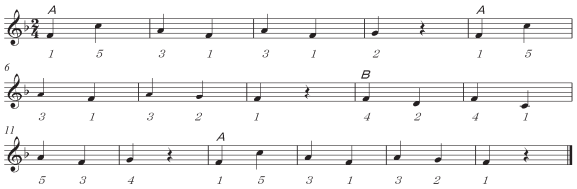
譜例 22《メリーさんの羊》ト長調



譜例 23《おかたづけ》



譜例 24《まつぼっくり》



(5) 広い音域・フレーズの音域が広い旋律

フレーズが１オクターブに及ぶ旋律の演奏は初心者にとっては難しい課題である。《はをみがきましょう》の９小節目からのフレーズは、１オクターブに及ぶ旋律であり、このような楽曲については歌の旋律をピアノの右手がそのまま演奏するのではなく、簡略化することが考えられる。

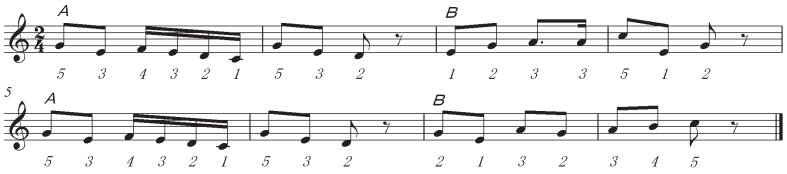
譜例27は旋律を簡略にした伴奏の例である。

(6)　各調・黒鍵を含む旋律

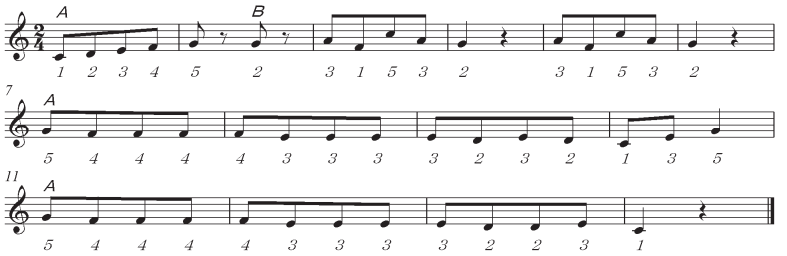
歌の音域は、概ね中央ハから上に１オクターブなので、ハ長調の場合は音域の両端が終止音となる。歌によっては終止音の上下に旋律が広がるものもあり、主音が音域の中間に位置するヘ音やト音となる場合がある。ト長調の《うみ》やヘ長調の《ぞうさん》《おしょうがつ》《たなばたさま》などがその例である。旋律と伴奏それぞれの音域を、中央ハから上下に概ね１オクターブとした場合、これらの調の左手による伴奏の和音の配置は、主音がヘ、トと高くなるため、前述のパターンでは旋律と音域が重複してしまう。そのため、次のような和音配置（譜例28）の工夫が必要となる。

このパターンを用いて伴奏を付けた例が、次の譜例29《うみ》、譜例30《ぞうさん》である。

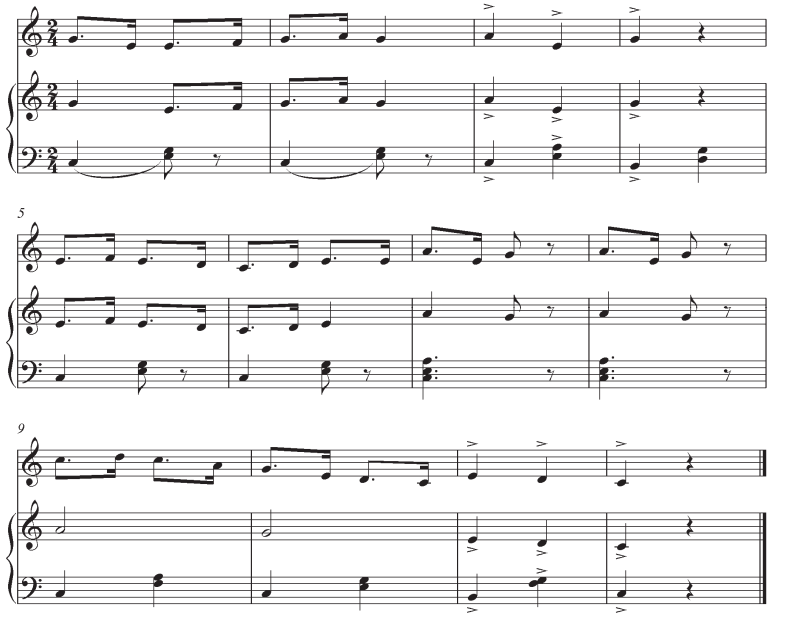
譜例 25《どんぐりころころ》



譜例 26《こぎつね》



譜例 27《はをみがきましょう》ピアノ簡易伴奏



これまで、子どもの歌について、曲想、旋律全体の音域、各フレーズ（旋律のまとまり、区切り）の音域、付点やシンコペーションのリズム、調や臨時記号の有無などを分析し、初心者にも演奏可能なピアノ伴奏の在り方を究明し、その作成を試みた。次に作成したそれらの歌の伴奏を選択し配列することで、ピアノ学習のカリキュラム構成を試みた。

5　ピアノ学習カリキュラムの開発

ピアノ伴奏の難易度を視点にこれまで教材開発にあたった歌、幼稚園などで子どもが歌うであろう歌について、改めて整理したものが表１である。

表中の段階は、前項の教材開発での(1)～(6)の段階である。その他に、最低音、最高音とその度数を示した音域、拍子、広い音域のフレーズや付点のリズムの有無、調などについて分析している。音域が狭く、付点のリズムを含まないハ長調の歌から配列している。なお、調の欄は、ハ長調以外を記述している。

カリキュラムの作成は、学習目標、学習期間を設定し、それに基づき教材を選択することになる。

(1)　学習の目標

学習の目標は、初心者が、子どもの歌の伴奏を演奏する活動を通して、ピアノ演奏の基礎的技能と音楽表現の能力を身に付けることである。また、その過程で楽譜や記号、調や和音などの知識を理

解することである。

⑵　学習の期間

学習の期間は１年間の授業とし、前・後期それぞれ４ヵ月間を想定した。各期を２ヵ月ずつに分け、４期に分ける。

⑶　各期の学習と教材

子どもの歌によるピアノ学習のカリキュラムの各期の概要、教材は以下のとおりである。

〔第１期〕４・５月

ピアノ学習への導入段階と位置づけ、手を広げずに演奏できる楽曲とする。ハ長調の楽曲とし、右手は６度以下の狭い音域の旋律、左手は基本的なパターンの伴奏音型とし、ピアノ演奏に慣れることを目標とする。演奏活動を通して、音符と鍵盤の関係を理解し、ト音記号とヘ音記号の楽譜に慣れる。

教材は《ちょうちょう》《ぶんぶんぶん》《チューリップ》《メリーさんの羊》などの誰もが知っている歌とする。

〔第２期〕６・７月

第１期に続いて、右手は音域の狭い旋律、左手は基本的なパターンの伴奏音型の楽曲を演奏する。教材は《むすんでひらいて》《おかたづけ》《おててをあらいましょう》《カッコウ》などの歌とする。

また、第１期で学習した４曲をヘ長調とト長調に移調したものを演奏する。

演奏を通して、ヘ長調とト長調の調号と音階、その和音を理解する。

〔第３期〕10・11月

右手は１オクターブに及ぶ広い音域の旋律を演奏する。フレーズごとの指のポジションとその移動に慣れる。

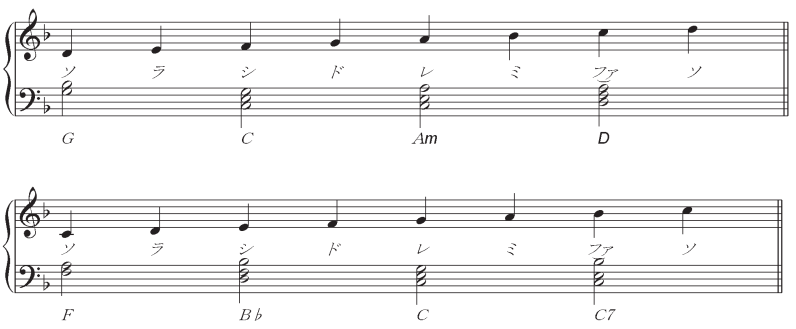
教材は《まつぼっくり》《どんぐりころころ》《こぎつね》《おしょうがつ》などの歌とし、左手は負担の少ない基本的なパターンの伴奏音型とする。

また、第２期で学習した楽曲をヘ長調とト長調に移調したものを演奏する。

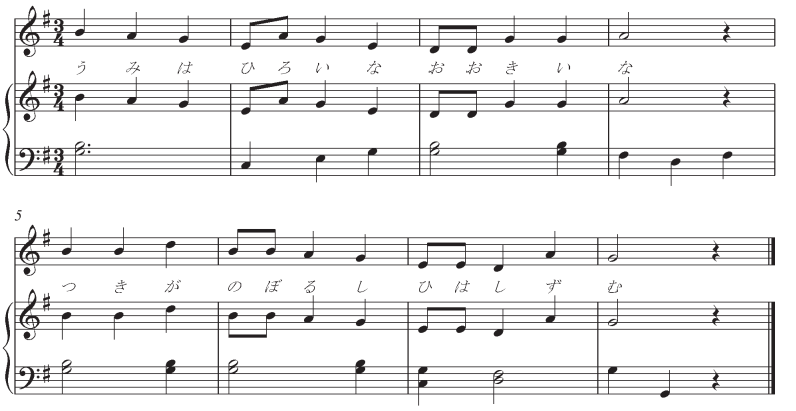
〔第４期〕12・１月

これまでの学習で身に付けた技能をもとに、さ

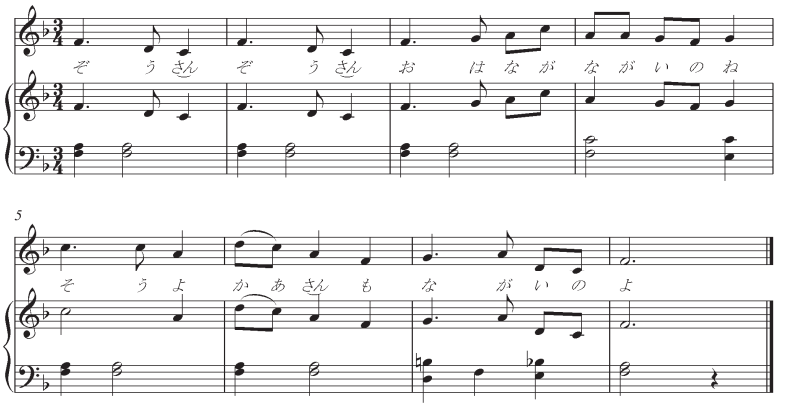
譜例28「伴奏のパターン」ト長調・ヘ長調



譜例29《うみ》



譜例30《ぞうさん》



まざまな楽曲を演奏する。フレーズの音域が広く演奏の難易度が高い楽曲は、旋律を狭い音域に簡略化した簡易伴奏に編曲したものとする。

なお、簡略化には、歌の旋律の同音の連打の省略、旋律の骨格だけを残して音を省いた旋律、パターン化した伴奏音型の活用などがある。

子どもの歌によるピアノ学習カリキュラムの全体像を示したのが表２である。

表１の譜例欄の番号は初出を記述いている。

6　研究のまとめと今後の課題

ピアノの初心者の学習にはバイエルピアノ教則本を用いることが多いが、学習の場を離れての演奏は皆無といえる。近年盛んとなった大人のピアノ教室ではよく知られた楽曲によるテキストが用いられており、保育者養成でもそれに適した実用的な楽曲によるテキストの活用が望ましいといえる。そこで本稿では、子どもの歌によるピアノ学習のテキスト作成を試みた。狭い音域、少ない音数、単純な和声進行の楽曲が多いという子どもの歌の特質を生かし、ピアノ導入期の教材開発にある程度の成果が得られたと考える。

また、それらの教材による年間カリキュラムの試案を作成した。今後はこれを用いたピアノ初心者に対する教育を実践し、個々の楽曲の演奏上の課題や音楽性を再検討するとともに、教材楽曲の配列などカリキュラム構成の改善に努める必要があると考える。

参考文献

「こどものうた200」小林美実編、チャイルド社
「続こどものうた200」小林美実編、チャイルド社

表１　子どもの歌の分析表

譜例	曲名	音域			広い音域のフレーズ	拍子	付点	調	段階	作詞者	作曲者
		最低音	最高音	度数							
7	ちょうちょう	ド	ソ	5		2			1	ドイツ民謡	
12	ぶんぶんぶん	ド	ソ	5		2			1	ボヘミア民謡	
15	カッコウ	ド	ソ	5		3			1	ドイツ民謡	
16	メリーさんの羊	ド	ソ	5		2	有		2	アメリカ民謡	
2	おかたづけ	ド	ソ	5		2	有		2	不詳	
13	チューリップ	ド	ラ	6		2			1	近藤宮子	井上武士
6	おててをあらいましょう	ド	ラ	6		2			1	不詳	
	むすんでひらいて	ド	ラ	6		2			1	不詳	ルソー
8	かえるの合唱	ド	ラ	6		2			1	外国曲	
24	まつぼっくり	ソ	ソ	8		2			4	広田孝夫	小林や江
25	どんぐりころころ	ド	ド	8		2	有		4	青木存義	梁田　貞
26	こぎつね	ド	ド	8		2			4	外国曲	
9	豆まき	ド	ド	8	有	2			5	絵本唱歌	
	たきび	ド	ド	8	有	2			5	巽　聖歌	渡辺　茂
1	おかえりのうた	ド	ド	8		4	有		5	天野　蝶	一宮道子
	かたつむり	ド	ド	8	有	2	有		5	文部省唱歌	
5	おべんとう	ド	ド	8		2	有		5	天野　蝶	一宮道子
	おしょうがつ	ソ	ソ	8		4		へ長調	6	東　くめ	滝廉太郎
	たなばたさま	ソ	ソ	8		2		へ長調	6	権藤はなよ 林　柳波	下総皖一
29	うみ	ソ	ソ	8	有	3		ト長調	6	林　柳波	井上武士
3	はをみがきましょう	ド	レ	9	有	2			5	則武昭彦	則武昭彦
30	ぞうさん	ソ	ラ	9	有	3	有	へ長調	6	まどみちお	團伊玖磨
	うれしいひなまつり	ラ	シ	9	有	2		ハ長調	6	山野三郎	河村光陽

表２　初心者対象の子どもの歌によるピアノ学習の年間カリキュラム・試案

第１期	第２期	第３期	第４期
ちょうちょう	→〈へ長調〉→〈ト長調〉	＊第２期の歌をへ長調、ト長調に移調したもの。	＊第４段階以上の歌。フレーズの音域が広いものは、旋律を簡略化した簡易伴奏に編曲したものとする。
ぶんぶんぶん	→〈へ長調〉→〈ト長調〉		
チューリップ	→〈へ長調〉		
メリーさんの羊	→〈へ長調〉→〈ト長調〉		
＊誰でもが知っている親しみやすい歌。 ＊音域の狭い（第１・２段階）ハ長調の基本的なパターンの伴奏音型のもの。	むすんでひらいて	→〈へ長調〉	
	おかたづけ	→〈へ長調〉→〈ト長調〉	
	おててをあらいましょう	→〈へ長調〉	
	カッコウ	→〈へ長調〉→〈ト長調〉	
	かえるの合唱	→〈へ長調〉→〈ト長調〉	
	＊第１期に続き、音域の狭いハ長調の基本的なパターンの伴奏音型のもの。 ＊第１期の歌をへ長調、ト長調に移調したもの。	まつぼっくり	
		どんぐりころころ	
		こぎつね	
		おしょうがつ	
		＊１オクターブに及ぶ音域の広い歌（第４段階以上）でフレーズの音域が狭いもの。	おかえりのうた
			おべんとう
			はをみがきましょう
			たなばたさま